

令和4年2月17日

鳥取県知事定例記者会見

鳥取県令和4年度当初予算案 ～コロナを越える～

新型コロナを乗り越え、新たな時代への飛躍に向けて、平成20年度以降最大となる積極型予算を編成

予算規模 **364,005,675**千円 (対前年 102.0%)

命と健康を守り抜く 163億円

- ✓ 新型コロナに立ち向かう
医療環境の整備・充実 135億円
- ✓ 保健衛生・検査体制の強化 16億円
- ✓ 感染防止と健康づくり 12億円

ポストコロナの産業・雇用へ 162億円

- ✓ コロナを越える経済・雇用対策 90億円
- ✓ デジタルなど新産業の創造 31億円
- ✓ 強い農林水産業の実現 41億円

ポストコロナのふるさとへ 169億円

- ✓ 新しい人の流れの創出と
新時代の観光立県 34億円
- ✓ 未来を彩る人財づくり 17億円
- ✓ 子育て王国と支えあい社会の推進 118億円

安心安全・エコライフ 170億円

- ✓ 脱炭素社会の実現 25億円
- ✓ SDGsの実践による
持続可能な地域づくり 14億円
- ✓ 防災・減災、インフラの充実 131億円

公共事業 **507**億円 対前年: 101.5%

(11月追加補正を含めると**730**億円)対前年: 104.1%

・補助公共 : 318億円
・直轄 : 28億円
・単県公共 : 110億円
・災害公共 : 51億円

財政健全化を堅持～財政誘導目標達成に道筋～

数 値 目 標

① **令和4年度の財政調整型基金残高** \geq **標準財政規模の1割**

R4当初時点 222億円

目標値 216億円

※大規模災害への
備えを確保

※財政調整型基金

財政調整基金、県立公共施設等建設基金、減債基金、大規模事業基金、長寿社会対策推進基金の5基金

② **令和4年度の実質的な県債残高** \leq **県内総生産（名目）の2割**

R4当初時点 3,526億円

目標値 3,708億円

※将来負担比率
全国9位（R2実績）

※実質的な県債残高

臨時財政対策債及び交付税措置率の高い防災関連等の起債に係る交付税措置額を除いた県債の残高

③ **当初予算編成時点でのプライマリーバランスの黒字化**

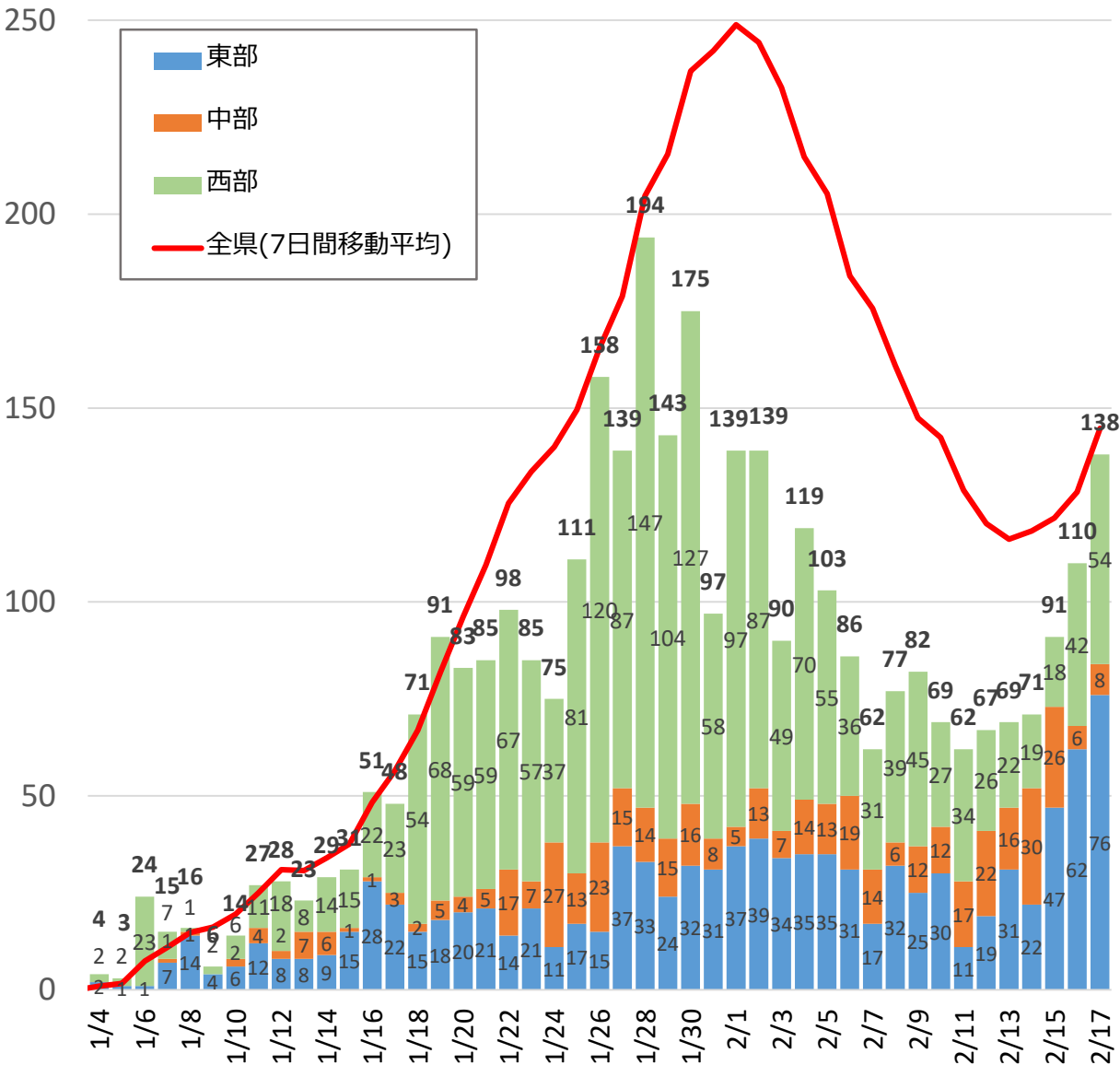
R4当初時点 25億円の黒字

※借金を増やさない
財政構造の確立

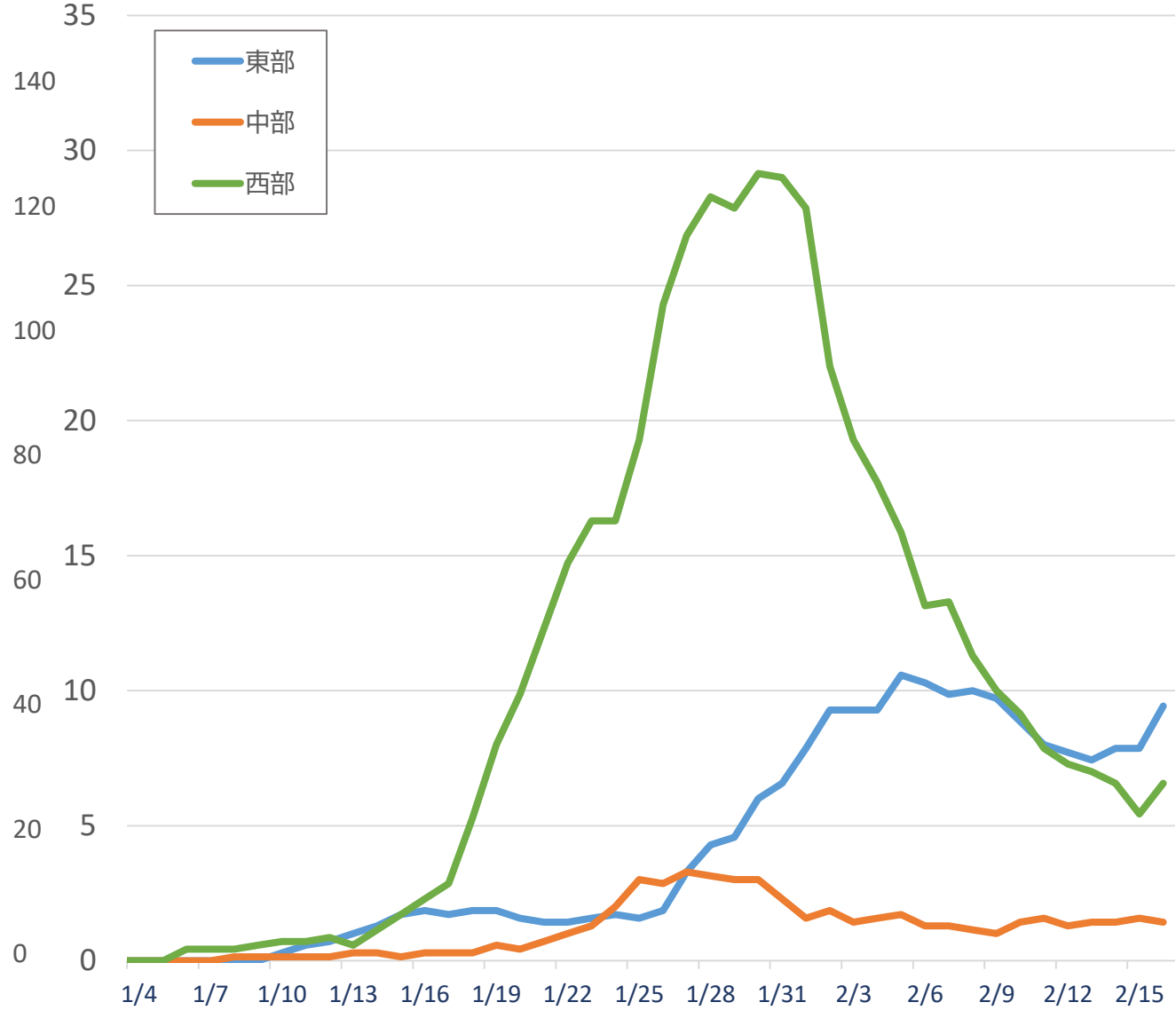
※プライマリーバランスの黒字（臨財債除く）：公債費－県債発行額 > 0

第6波の感染状況

新規陽性者数の推移

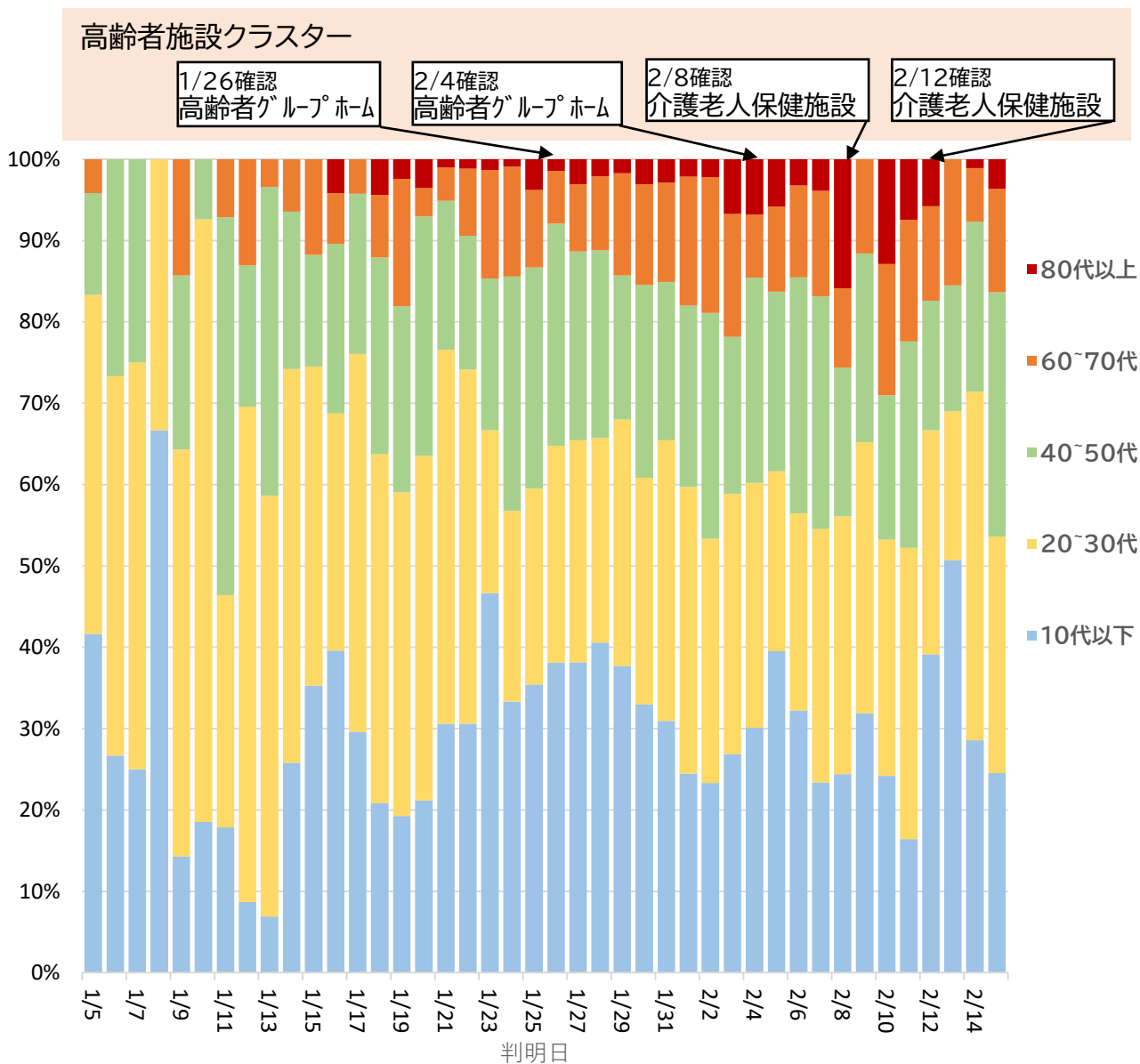


感染経路不明者数の推移

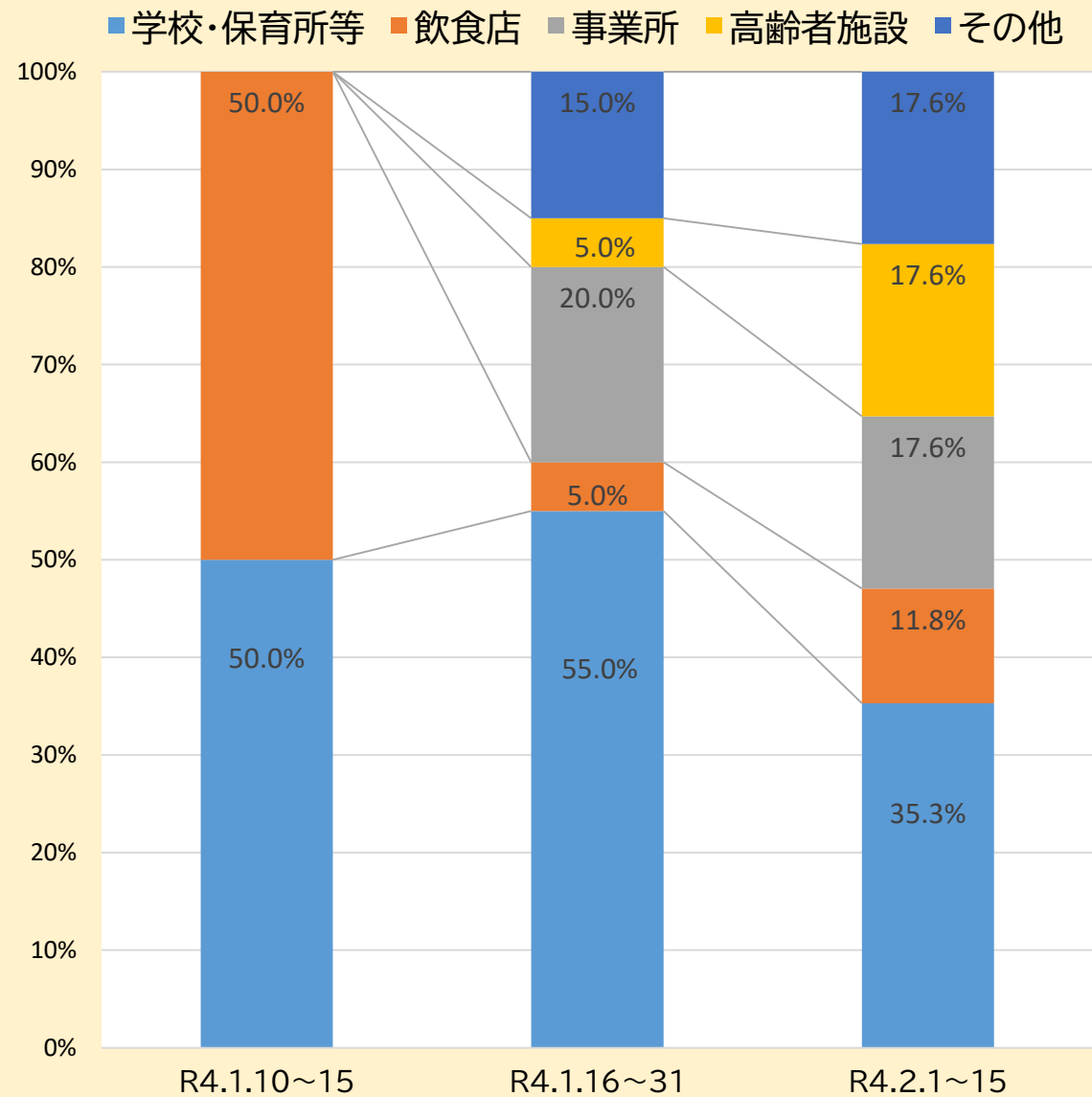


第6波の高齢者感染状況

年代別新規陽性者の推移【割合】



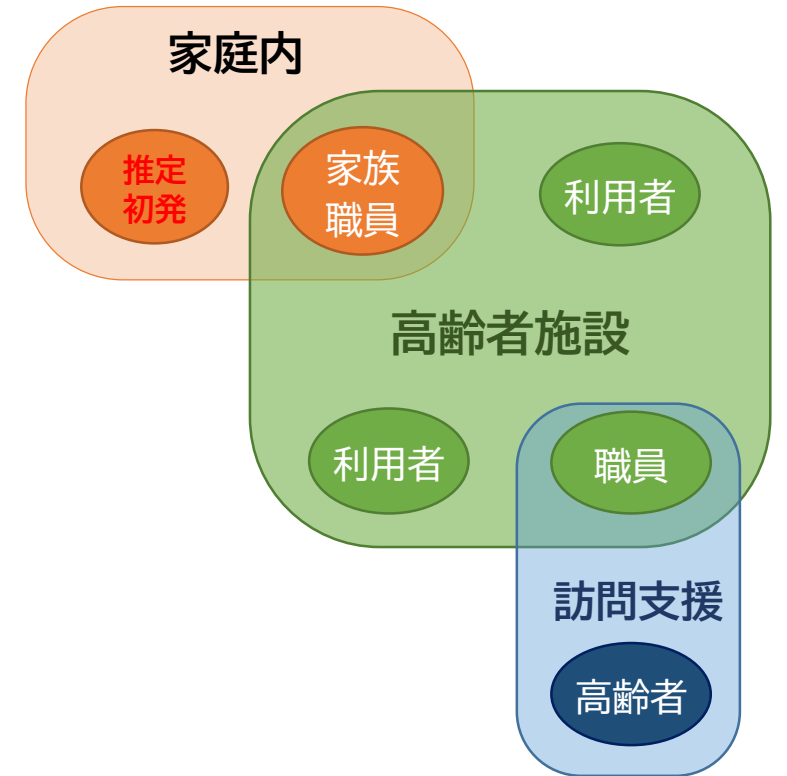
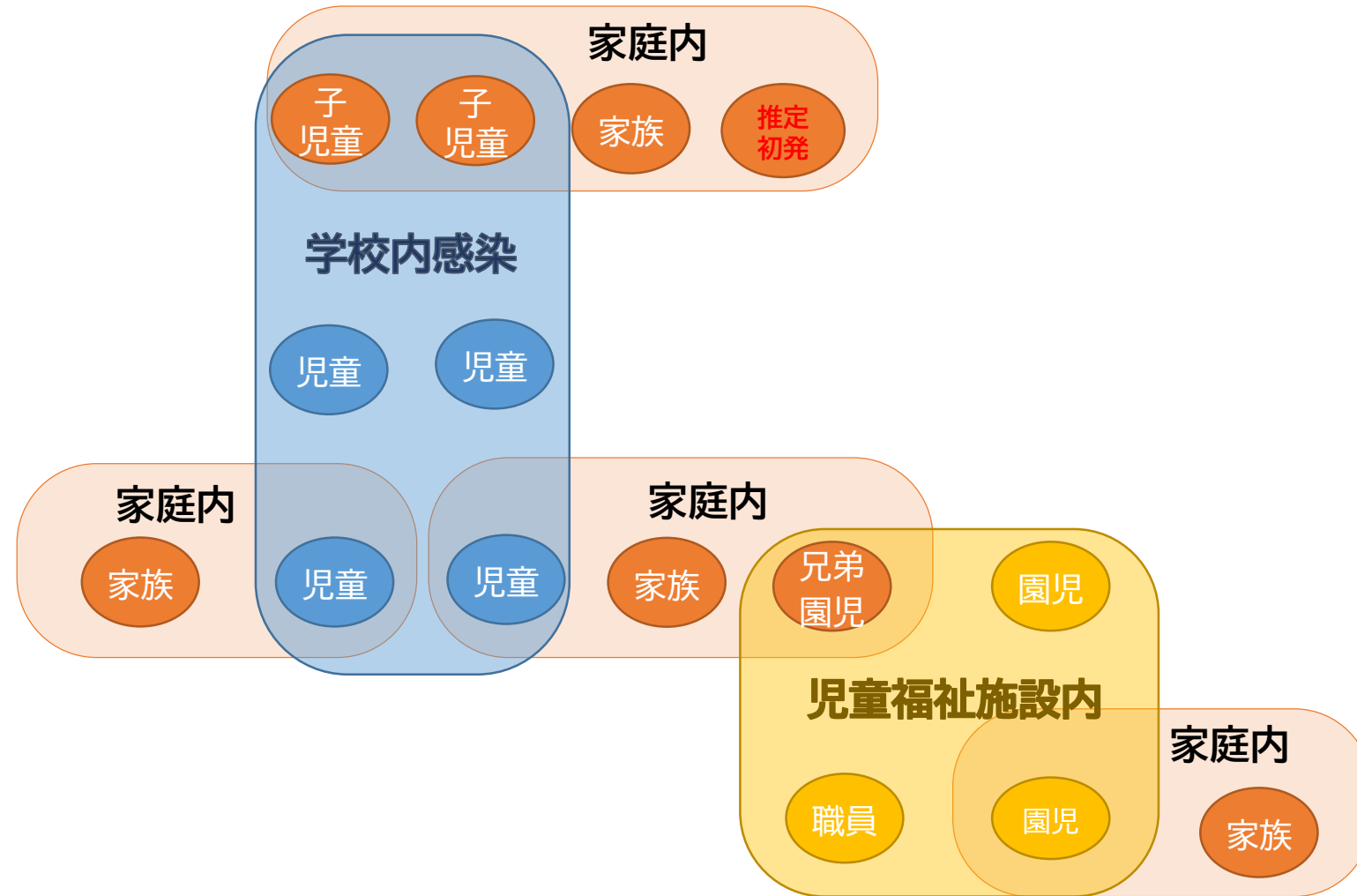
クラスターの推移【割合】



第6波の感染連鎖事例

- 家庭内感染 ⇒ 学校内感染(子→子) ⇒ 家庭内感染
- ⇒ 児童福祉施設内感染(子→子) ⇒ 家庭内感染

- 家庭内感染 ⇒ 高齢者施設内等感染



オミクロン株感染急拡大防止緊急対策

鳥取市との対策

- より機動的に疫学調査を行い、感染拡大を抑制する合同チームを鳥取市・鳥取県で設置
- 鳥取市・鳥取県共同で市民への呼びかけを実施

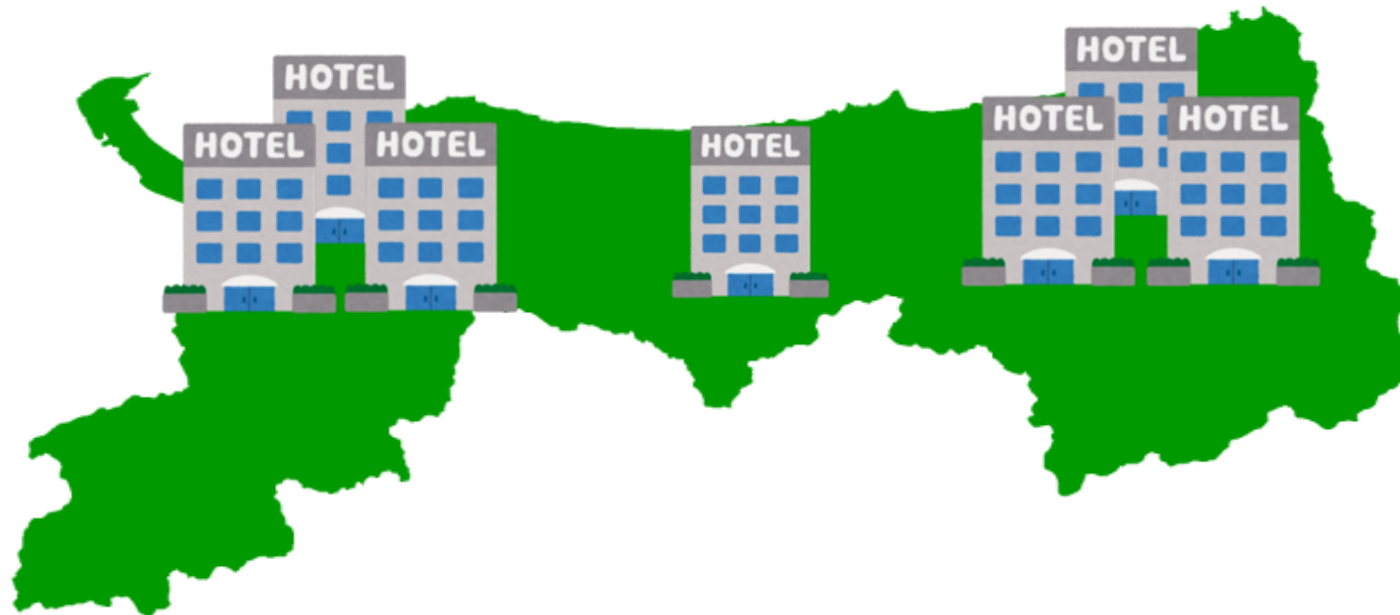
県民の皆様へのメッセージ

- 連休を契機としたリバウンドが起こり、今後、感染が急上昇するかどうかギリギリの状況です。
- マスク着用、換気の徹底、密を避ける、距離を取るなどオミクロン株に対しても基本的な感染予防策は変わりません。
- 徹底した感染予防を行い、対策をパワーアップし、ご自身と大切な人を守りましょう。

宿泊療養施設の拡充

新たに宿泊療養施設を確保し、収容能力をさらに拡充

12月末	2月2日~	3月4日~	備考
5施設 364室	6施設 458室	7施設 約560室	東部:2施設(135室) +1施設(約100室) 中部:1施設(29室) 西部:3施設(294室)



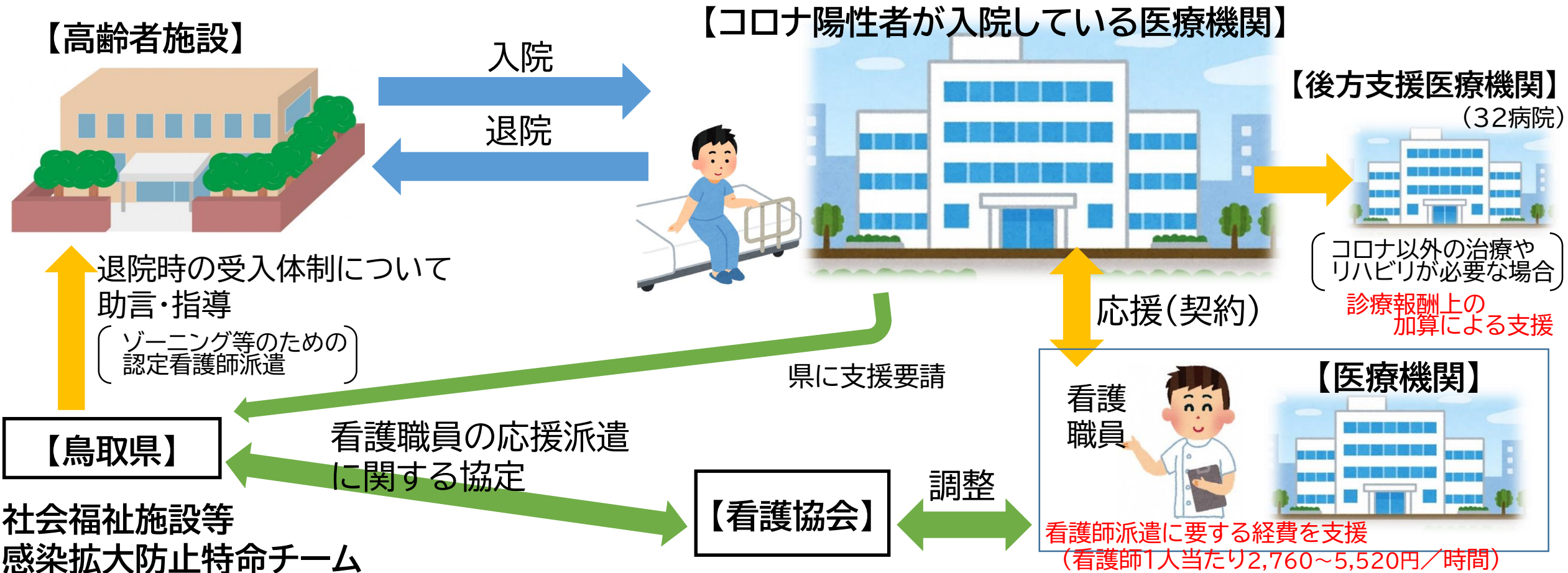
高齢者入院支援プログラム

医療機関における高齢者の受入体制を充実するとともに、高齢者施設の退院後の受入体制を支援

【課題】

高齢者のコロナ陽性入院患者の増加に伴う

- ・医療機関の看護体制への一時的な負荷
- ・入所者退院後の高齢者施設での円滑な受入れ実施



院内感染対策の強化・徹底

- ◆ 院内感染の発生を受け、専門家を交えて緊急対策会議を開催。
- ◆ 新型コロナ院内感染緊急対策チームを設置し、県内の医療機関における院内感染の発生を未然に防ぐとともに、発生後の対応等の支援を強化。

鳥取県新型コロナウイルス院内感染緊急対策会議（2/15開催）

- ・ 県医師会、各地区医師会、鳥取看護大学、感染制御専門家チームメンバー、県庁、各保健所 ほか
- ・ 基本的な対策や特に注意すべきポイント等について議論

院内感染対策で特に注意すべきポイント

- ・ 職員、取引業者等によるウイルスの持込みの防止
⇒ 入院が長期化しやすい療養病床などの場合、ウイルスは基本的に、職員等から院内に持ち込まれるという前提に立った対策を実施。
- ・ 個人防護具（N95、ゴーグル、手袋等）の適切な着脱や、よく触れる箇所の清拭消毒など、標準予防策の徹底
⇒ 喀痰吸引、口腔ケア、入浴介助等の場面は、飛沫・接触感染の可能性が高まるおそれ。標準予防策の方法のわかりやすい掲示等も重要。
- ・ 適切なゾーニング・コホーティング
- ・ 患者の症状等の把握、必要に応じた迅速な検査等の実施

医療機関等をPCR検査等支援事業の対象に追加

2月末までの限定的取扱いとして、一斉検査も含め重点的に幅広く支援

本日付けで医療機関等に周知

① 本庁に緊急対応専門職員を配置

- ・ 院内感染事案における初動対応の調整等
- ・ 研修会等による院内感染対策の更なる徹底

② 新型コロナ院内感染緊急対策チームの設置

- ・ 個別の相談支援や実地での助言等を実施（鳥取県感染制御専門家チームと連携）

オミクロン株から子どもを守る感染防止策

<子どものマスク着用の考え方>

「基本的対処方針」(R4.2.10)

発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童は、可能な範囲で、一時的に、マスク着用を奨める。ただし、2歳未満児のマスク着用は奨めず、低年齢児については特に慎重に対応する。

《本県のオミクロン株流行中の対応方針》

- 幼稚園と同様、保育所等でも3歳以上児は可能な子はマスク着用を奨める
- 2歳児は着用が難しい園児は着けなくてよい
- 2歳未満児は着けない

発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童は、可能な範囲で、一時的に、マスク着用を奨める。ただし、マスクを着用する際はどの年齢においても、息苦しくないか等子どもの体調変化に十分注意し、本人の調子が悪い場合は無理して着用させる必要はない。

<保育施設等緊急点検結果等を踏まえた感染防止対策例>

クラスター事案を受け、県と湯梨浜町で町内8施設の緊急点検を2月15日に実施

- 早朝・延長保育時や日中の複数クラスによる合同保育の当面の間の自粛
→ 早朝・延長保育時・・・マスク着用有無に応じたグループ分けなど感染を広げない形
- 特にマスク着用が難しいクラスにおける換気、こまめな消毒の徹底
→ 1時間に2回程度、数分間窓を全開、目安(CO2モニター)による計測
- 体調不良の場合は登園を控えていただくことの徹底、園児・家族がPCR検査を受けることになった場合の園への連絡の徹底



改めて市町村や各施設に周知し、更なる感染対策の徹底を図る。

新型コロナウイルスワクチンの小児接種がスタートします

- ・小児接種については、3月4日の智頭町を皮切りに、県内市町村での接種がスタートします。
- ・県内の感染者全体に占める子どもの割合は増えています。ワクチン接種について、お子様と一緒にご検討ください。

●県内市町村の接種体制 ※圏域内対象人口：3.5万人（東部1.4万 中部0.7万 西部1.4万）

【東部】麒麟のまち広域連携
(協力医療機関25箇所)

- ・若桜町以外は、個別接種も実施

【中部】1市4町の広域連携
(圏域内9機関で個別接種)

【西部】西部町村会と米子市による広域連携体制構築に向け最終調整中・境港市は単独実施

接種開始 時期等

3月4日を皮切りに、中旬までに全市町村が接種開始予定

●ワクチン供給時期等

小児用ワクチン

(ファイザー社製)

2回接種(接種間隔3週間)

第1クール：42箱=4,200回分(配送：2/21~28~)

第2クール：91箱=9,100回分(配送：3/7~14~) ⇒

第3クール：205箱=20,500回分(配送：4/4~11~)

第4クール：205箱=20,500回分(配送：4/18~25~)

合計54,300回分

= 27,150人分

※対象人口の

77.5%接種可能

ワクチンを受けている、受けていないといった理由で周りの人を悪く言ったり、いじめたりすることは絶対にあってはなりません。

追加接種の加速化に向けた取組

- ・ エッセンシャルワーカーや高齢者等、2回目接種完了後6カ月経過した方の追加接種を、市町村、医療機関と協力して接種体制を確保し、強力に推進中
- ・ モデルナワクチン・コンシェルジュで県民の不安を解消、すぐうてる接種会場を案内

＜職域接種＞

- ・ 2月末の航空自衛隊美保基地を皮切りに、県内15会場を実施
(接種開始予定時期：2月末1, 3月上旬2, 中旬2, 下旬以降10)
⇒ 鳥取型共同プロジェクトは、県内2会場を実施
県民の皆さんも受付

鳥取型職域 共同プロジェクト

東部 1 西部 1
計2会場

モデルナ

**モデルナワクチン
コンシェルジュ**
(接種に関する各種相談
会場案内等)

0857-26-7976

個別接種医療機関

モデルナ

ファイザー

東部120 中部53 西部142 計315機関

市町村集団接種会場

モデルナ

ファイザー

東部11 中部11 西部13 計35会場

県営大規模接種センター

モデルナ

県内7会場 **3万人規模**で展開
合計66回(東部34回 中部17回 西部15回)

2月28日(月)から新規予約開始

【東部】 新日本海新聞社	3/12(土),13(日), 26(土),27(日)
【中部】 倉吉シティホテル	3/19(土),20(日)
【西部】 米子しんまち天満屋	3/5(土)6(日)

＜高齢者＞ 対象高齢者への接種券送付は完了

接種券が届いたらお早めに接種をお願いします！

⇒ **接種の不安や会場については、コンシェルジュにご相談を！！**

＜エッセンシャルワーカー＞ ※市町村又は県営会場で接種した数

保育士：980名 教職員：675名 消防職員：78名 ※2/15

その他：7,895名 (障がい者施設、通所介護事業所職員など)

**接種券発行の加速化、エッセンシャルワーカーのリスト化
による接種会場への誘導等を通じて、追加接種を加速**



本県へのワクチン配分・供給状況（小児接種用ワクチンは除く）

種類	区分	納入状況・配送予定	配分数		接種可能数	
			箱	回	箱	回
ファイザー	県在庫	市町村納入済み	8	箱	9,360	回
ファイザー	1クール	市町村納入済み	23	箱	26,910	回
ファイザー	2クール	市町村納入済み	49	箱	57,330	回
ファイザー	3クール	R4.2/14～、2/21～	39	箱	45,630	回
ファイザー	4クール	R4.2/28～	13	箱	15,210	回
ファイザー	5クール	R4.3/14～	26	箱	30,420	回
ファイザー	6クール	R4.3/21～	11	箱	12,870	回
ファイザー	7クール	R4.4/4～、4/11～	12	箱	14,040	回
ファイザー	8クール	R4.4/18～、4/25～	11	箱	12,870	回
計			192	箱	224,640	回

種類	区分	納入状況・配送予定	配分数		接種可能数	
			箱	回	箱	回
モデルナ	緊急配送	県納入済み（12/28）	7.5	箱	1,125	回
モデルナ	1クール	市町村納入済み	519	箱	77,850	回
モデルナ	2クール	R4.2/2～	160	箱	24,000	回
モデルナ	3クール※	R4.2/21～	204	箱	30,600	回
モデルナ	4クール	R4.3/7～	178	箱	26,700	回
モデルナ	5クール	R4.3/14～	157	箱	23,550	回
モデルナ	6クール	R4.4/4～	214	箱	32,100	回
モデルナ	7クール	R4.4/18～、4/25～	75	箱	11,250	回
モデルナ	8クール	R4.5/9～、5/16～	75	箱	11,250	回
計			1,589.5	箱	238,425	回

5月下旬までの配分量
供給スケジュールが示された
(2/15国通知)

合計 463,065回分が5月下旬までに
県内市町村に供給されることが確定
※ 2回目接種完了者数（426,986人）の約1.1倍

県内経済・産業のコロナ禍からの本格回復・発展を推進

◆ポストコロナに向けた資金繰り支援事業

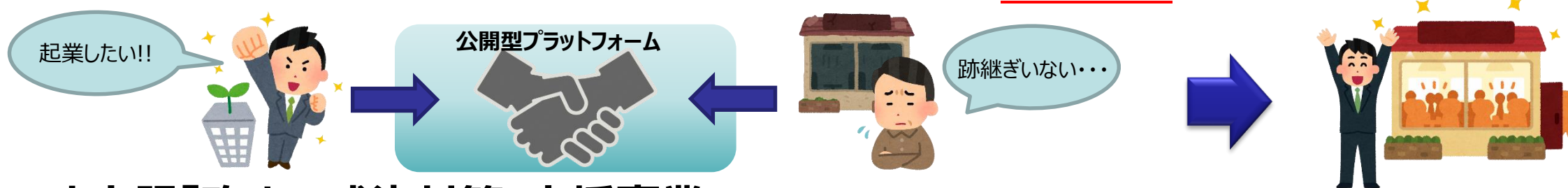
- 最長5年間元本返済不要の期日一括返済型資金で県内中小事業者の資金繰りを支援
- 金融機関等に対し、無利子無保証融資（ゼロゼロ融資）の柔軟な条件変更対応を働きかけ

◆鳥取県産業成長応援補助金

- 県内企業の設備投資等に係る予算を倍増（10億円→20億円）
- コロナ禍による海外生産リスクを踏まえ、国内回帰（海外から県内への生産移管）を重点支援
基本補助率10%→20%、上限5億円→10億円に引上げ

◆戦略的事業承継推進モデル構築事業

- 全国の起業家と県内後継者不在企業とのマッチングにより、「起業型」の事業承継モデルを構築



◆コロナ克服「攻めの感染対策」支援事業

- 複数企業・団体等による新技術等を活用したモデル的な取組を支援（補助率2/3）

[取組の例]

- ✓ 観光・飲食エリアでのゴーストキッチン（店内飲食スペースを持たない複数店舗による宅配専用の共同キッチン）導入 など

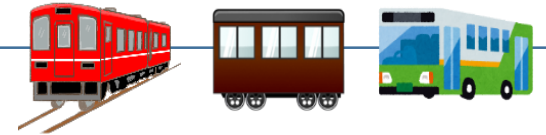
新しい時代の地域公共交通を見据え、多様なサービスと融合させた利便性の高い新たな公共交通（鳥取型MaaS）を官民連携で検討。基盤整備や実証試験等を実施していく。

鳥取県MaaSコンソーシアムの立ち上げ

- 交通、飲食小売、金融、観光、医療福祉等、多様な事業者で構成する官民連携型のMaaS推進組織の立ち上げ
- 地域交通（鉄道、バス、タクシー等）とサービスの事業間連携により、新たなサービスや利便性の高いサービスを検討

MaaS関連基盤整備・実証実験の実施

- QRコード等によるキャッシュレス決済の実証実験
(バスにおけるキャッシュレス決済の導入)
- 交通運営のDX化
(バス情報のデータ化、研修等)



- JR・若鉄・日交若桜線共通パスによる実証
- 米子市内での定額共通パス実証試験（Y-MaaS）
※定額パスとセットで協賛店等と連携したクーポン機能付加
- タクシーのサービス革新 （オンデマンドタクシー実証）



CO2吸収能力に優れた「エリートツリー」供給の加速化

令和4年度当初予算
1,712万円

- 先進的なノウハウを持つ日本製紙が、本県のエリートツリー（特定母樹スギ・ヒノキ）供給に参画
 - ✓ 日本製紙による本県での採種園造成を支援 ※10万本規模の施設を整備、段階的に拡大予定
- 日本製紙と山林樹苗協同組合の協業体制で苗木生産を実施
 - ✓ 組合による苗木生産施設の整備を支援
 - ✓ 生産体制構築に向けて、技術指導や専用資材を提供



- ✓ 成長性が高いため、造林コストを低減
- ✓ 日本製紙の県内誘致により、エリートツリーの供給計画を大幅前倒し（R11→R7）
- ✓ 皆伐再造林に必要な苗木数を確保（森林・林業振興ビジョンのR12目標:96万本）

エリートツリー
成長性が高くCO2
吸収能力に優れ
（在来品種の1.5
倍以上）、
花粉量が少ない等
の特徴を持つ



エリートツリー（左）と従来スギ（右）
の成長比較（植栽4年目） ↑

→皆伐再造林の加速、脱炭素社会の実現に貢献

ウニの集中駆除

- ・2年間で集中的に駆除
- ・ボランティアダイバーにも協力を呼び掛け

水産資源としての活用研究

- ・駆除したウニの試験養殖、試験販売
- ・ウニの保存技術開発

◇日本財団（海と日本プロジェクト）との連携【申請中】

- ・ウニを水産資源として活用する取組をテーマに、子どもを中心に海の豊かさを啓発（環境学習会の開催など）



駆除したウニの活用モデルを構築し、持続的な取組につなげる。



新しい働き方の推進

ANA客室乗務員が**続々と鳥取県への移住を決定**

※**県とANAとの間で進める鳥取県での兼業を活用した地方移住プロジェクト**

「ANA地方創成プロジェクト」による客室乗務員の移住が決定

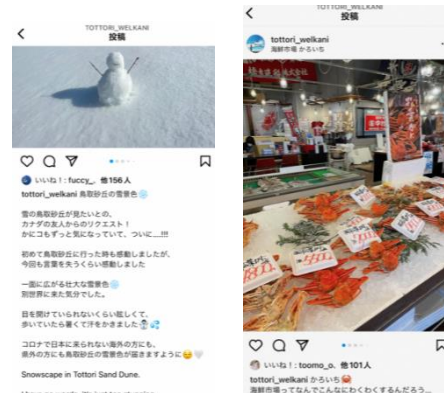
⇒ANA客室乗務員 **2名**が**3月**に鳥取県への移住・兼業を開始

○兼業先:日本海テレビジョン放送(株)

移住する客室乗務員には「**とっとりへ ウェルカニアンバサダー**」として、鳥取県の魅力発信にも携わっていただく。

すでに鳥取へ移住した客室乗務員は鳥取県の魅力情報発信を積極的に実施

※「とっとりdiary」・・・
イベント・観光情報の発信ではなく
「くらしの一コマ」のように居住者目線で
鳥取暮らしの魅力発信



特急「やくも」(381系)の国鉄色リバイバル運転とのタイアップ

旅情あふれる「鳥鉄の旅」創造事業

- JR西日本と連携し、特急「やくも」(381系)国鉄色リバイバル運転に際し、
- 国鉄色「やくも」+県内泊ツアー一造成(国鉄色やくも限定特典付き)
- 「やくも」利用の県内宿泊者に対して国鉄色やくも限定ノベルティ・県産品進呈

○運転開始日 3月19日(土)

○対象列車 特急「やくも」 8・9・24・25号

○オープニングセレモニー

3月19日(土)特急「やくも」8号出発時(8時19分)に
米子駅でオープニングセレモニーを実施
国鉄にちなんだ「サプライズイベント」を企画中!

○到着初便おもてなし

※岡山からの初便(やくも9号)に乗って米子駅へ到着(13時16分着) のお客様へ
国鉄色やくも限定ノベルティと県産品を進呈

2月16日 JR西日本 長谷川社長会見にて発表

特急「やくも」新型車両投入に向けて、伯備線で特急「やくも」が運転開始から50周年を迎える3月に381系1編成(6両)を懐かしい国鉄色に塗り替えて運転

塗装だけでなく、車内放送の際には当時と同様に「鉄道唱歌」のチャイムが流れ、当時の旅をよりリアルに再現



※写真はイメージ

「鉄腕アトム」とコラボしたNFTトレーディングカード

株式会社手塚プロダクション、株式会社J&J事業創造、NOBORDER.z FZEの3社が共同開発・販売を開始するご当地NFTトレーディングカードゲームの第一弾として、鳥取県がコラボSNSキャンペーンや、NOBORDER.z FZEとタイアップしたメタバース内において本県観光地のアピールを実施

ご当地NFTトレーディングカード

- ◆ カードは全50種（鳥取砂丘、投入堂など観光地35種、特産品などの観光資源15種）
- ◆ カードは2月末に発売予定
- ◆ 6月末にNFTトレーディングカードゲームアプリ「NFT DUEL」をリリース
- ◆ 将来的にはカードを使ったメタバース内でのゲームも開始
- ◆ カード売上の一部は、鳥取県の観光への支援として寄附を検討

